資料No. 2-6

研究報告の報告状況

（期間：平成１５年１０月２７日～平成１６年３月３１日）

	一般的名称	報告の概要
1	シクロホスファミド	エンドキサンによると考えられる急性骨髄性白血病の発現が疑われること。
2	芍薬甘草湯	芍薬甘草湯の服用により著明な低カリウム血症、ミオパチーを発症した1例報告。
3	葛根湯	葛根湯による多形紅斑型薬疹の1例報告。
4	テガフール	進行・再発乳癌に対してパクリタキセル+ユーエフティ併用療法を施行したところ、G3の肝機能障害1例、G4の好中球減少1例が認められた。
5	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用と組織型別乳癌のリスクを比較検討。
6	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	静注用人免疫グロブリン投与を受けたITP患者に急性腎不全、心筋炎が発現した。
7	テガフール	進行再発大腸癌患者にCTP-11+UFT/LV併用療法を施行したところG4の好中球減少が1例報告された。
8	硫酸モルヒネ	モルヒネ、三環系抗うつ薬服用による血栓性血小板減少性紫斑症の発現について。
9	メトロニダゾール	メトロニダゾールの総投与量67gを投与された患者に失調症が発症した。
10	塩酸ゲムシタビン	高齢者進行非小細胞肺癌患者にGEM・TXT併用療法を施行し、比較的高頻度（9例中5例）でG3以上の間質性肺炎（2例）及び肺炎（3例）が発現した。
11	乾燥BCG	BCG投与時の肉芽腫性肝炎の報告。
12	乾燥BCG	カテーテルの膀胱挿入時のトラブルで播種性BCG感染が発現。
13	エストリオール	血管運動性症状のない閉経後女性の骨粗鬆症の予防及び治療のために、エストロゲン＋プロゲスチン併用療法を行うことは推奨できない。
14	エストリオール	閉経後の女性に対するエストロゲン＋プロゲスチン併用療法により卵巣癌発現のリスクが上昇する。
15	塩酸モルヒネ	友人より鎮痛剤としてモルヒネ、三環系抗うつ剤を入手し内服。TTPと診断された。
16	テガフール	結腸癌、直腸癌患者に術後ユーエフティを1年間投与したGroupBで、G4の白血球減少が1例発現した。
17	エポエチンβ（遺伝子組換え）	頭頸部癌放射線療法患者の貧血改善に対して、エポエチン　ベータ使用群の方が、非使用群に比べ生命予後が悪かった。
18	ニフェジピン	徐放製剤等を粉砕しNGチューブより投与した症例。
19	ハロペリドール	ハロペリドールを中心とした処方により悪性症候群様の症状が出現した。
20	ハロペリドール	ハロペリドールによって悪性症候群が発生した
21	スピロノラクトン	高齢・女性の高血圧症患者に対する短時間作用型Ca拮抗薬、チアジド系およびK保持型利尿剤の使用が乳がんの発生率を高める可能性がある。
22	エストラジオール	ケトコナゾール併用により、エストラジオール代謝への相互作用が認められた。
23	シクロスポリン	シクロスポリン注射液とポリカーボネート製三方活栓を併用した場合コネクター部に亀裂が生じる。
24	ソマトロピン（遺伝子組換え）	ヒドロコルチゾン投与を受けている成人下垂体機能低下症患者に成長ホルモン(GH)療法を実施すると、投与されたヒドロコルチゾンのアベイラビリティが低下することが示唆された。
25	ソマトロピン（遺伝子組換え）	成人下垂体機能低下性成長ホルモン(GH)欠損症におけるGH投与はヒドロコルチゾン補充療法中の循環血中コルチゾール濃度を低下させる。
26	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法により好中球減少、感染、血小板減少、ニューロパシー等の副作用が認められた。

27	ポラプレジンク	攻撃因子抑制剤との併用効果が検証されなかった。
28	ポラプレジンク	攻撃因子抑制剤との併用による治療効果に有意な差が認められなかった。
29	エストラジオール	健常閉経後女性へエストラジオールとケトコナゾール併用したところエストロンの薬物動態に影響を認めた。
30	塩酸モルヒネ	モルヒネを服用した患者が，血栓性血小板減少性紫斑病に罹患したこと。
31	マレイン酸エナラプリル	マレイン酸エナラプリル投与前のレニン値が高いほど咳嗽発現の確率が高い。
32	アクチノマイシン D	進行性精巣癌患者におけるMAP(メトトレキサート、アクチノマイシンD、シスプラチン)療法の不十分な効果。
33	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	SLEによりステロイド投与中の患者に、両大腿骨頭壊死と左Kienbock病を発症した。
34	レボホリナートカルシウム	大腸癌肝転移(H3)に対する全身化学療法を治療した5例中1例、発熱が改善せず投与中止を余儀なくされ、9ヵ月で死亡した。
35	ハロペリドール	妄想性障害患者においてChlorpromazineやHaloperidolなどを服用したところ薬物性パーキンソン症候群を発症した1症例報告。
36	エストラジオール	CYP1B1遺伝子多型は、全体として乳癌のリスクに影響を及ぼさないが、長期にわたるホルモン補充療法の施行後のリスクを修飾することが強く示唆された。
37	エストラジオール	エストロゲン-プロゲスチン連続併用で乳癌リスク上昇が示唆された。
38	硫酸モルヒネ	友人より鎮静剤を内服し、TTPとなる。
39	ハロペリドール	妄想性障害患者においてChlorpromazineやHaloperidolなどを服用したところ薬物性パーキンソン症候群を発症した1症例報告。
40	ケトコナゾール	ヒトにおいてキニーネの代謝は本剤により阻害される。
41	塩酸チクロピジン	チクロピジン内服により誘発されたTTPの例。
42	塩酸チクロピジン	チクロピジンによりアレルギー主体の急性尿細管障害が発症した例。
43	プラノプロフェン	プラノプロフェン点眼液の長期投与により角膜穿孔を発症したと考えられる例。
44	スルピリド	スルピリド、塩酸クロカプラミン、塩酸クロルプロマジン、ゾテピンの併用中に腸管嚢腫様気腫症を来した例。
45	ワルファリンカリウム	ワルファリンの服用により、急性頸髄硬膜外血腫を来した例。
46	塩酸チクロピジン	チクロピジンの服用により、急性頸髄硬膜外血腫を来した例。
47	レボホリナートカルシウム	転移性大腸癌患者の年令別、2週間に1回のイリノテカン、ロイコボリン、フルオロウラシルのボーラス投与の安全性と有効性を評価する試験において、治療関連死または治療による悪化による死亡(Rothembergらの定義、2001年)が、118名の患者のうち3名(2.5%)に認められた。
48	ブスルファン	様々な慢性骨髄増殖症候群(真性赤血球増加(PV)、本態性血小板増加症 (ET)、特発性骨髄線維症(IMF))で、ヒドロキシウレア(HU)単独またはブスルファン(BU)による治療に続いて投与されたHUによる治療中に急性骨髄白血病(AML)、骨髄異形成症候群 (MDS)が発現した。
49	塩酸クロルプロマジン	塩酸クロルプロマジン、塩酸クロカプラミン等の抗精神病薬内服中の患者に腸管麻痺、腸管嚢腫様気腫症が発現した。
50	塩酸ニムスチン	悪性神経膠腫に対するACNUを含んだ化学療法で、器質性脳症候群、血栓症、アレルギーなどの未知の有害事象が報告された。
51	セボフルラン	セボフルランはイソフルラン、エンフルラン、Desflurane(日本未承認)と同様、乾燥したCO_2吸収剤に接触するとCOを発生させることが知られていることから臨床時の状態に近い条件下でCO量を定量し、患者が暴露される程度を予想する。
52	アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム	報告の医療機関の入院患者を対象に、出血性潰瘍における非ステロイド性抗炎症薬($NSAID_s$)の関与を調査した結果、全出血性潰瘍症例中$NSAID_s$使用例は38例27%で、$NSAID_s$の種類としては低用量アスピリンが多かった(30%)。
53	アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム	低用量アスピリン(81mg or 100mg)起因性潰瘍の実態について検討した結果、消化性潰瘍の約10%、NSAIDs潰瘍の約半数を占め、高齢者に多く、出血症状で発症するという特徴があるが、非アスピリンNSAIDs潰瘍と形態、HP陽性率、治癒率に差は認めなかった。
54	アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム	約3年の大腸内視鏡検査のデータから、NSAIDs服用者の約3%に大腸潰瘍を主とした大腸病変が発症することが判明した。これは、NSAIDs起因性胃・十二指腸潰瘍に比べて低頻度であるが、注意すべき病態であると考えられた。

55	アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム	1991年以降の非ステロイド系消炎鎮痛薬(NSAIDs)による消化管障害の実態調査をおこない、リウマチ患者の潰瘍発症が減少傾向を示すが、上部消化管緊急内視鏡に占めるNSAIDsの割合は多い。ことにアスピリン使用例では出血に注意する必要がある。
56	アセチルサリチル酸、合成ヒドロタルサイト	アスピリン服用により血腫が拡大したとの報告がなされた。
57	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンにより劇症肝不全が起こったとの報告がなされた。
58	アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム	虚血性脳卒中患者においてチクロピジン単独とチクロピジン＋アスピリン併用との抗血小板療法服用での有効性及び安全性について。
59	アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム	椎弓切除後の瘢痕とアスピリン(抗凝固治療)の組合せが硬膜外血腫の原因との報告がなされた。
60	インスリン　アスパルト(遺伝子組換え)	速効型インスリン製剤を使用したところ投与2時間後に立ちくらみが起こり、嘔吐も生じたため救急車で搬送され点滴処置後回復した。
61	塩酸ピオグリタゾン	米国におけるTZD系糖尿病治療薬による心不全リスクの増加について。
62	ランソプラゾール	クラリスロマイシン、経口ステロイド剤、ワーファリンの3剤ではPPIとの併用により副作用の発現頻度が高くなる可能性がある。
63	ゲフィチニブ	ゲフィチニブはin vitroにおいて光毒性物質であることが確認された。
64	エストラジオール	Kliogest(エストラジオール-酢酸ノルエチステロン貼付剤)において、骨粗鬆症予防効果は認められたが、更年期症状については有意な改善が認められなかった。
65	アセトアミノフェン	糖尿病の女児の副鼻腔炎の治療にアセトアミノフェンを投与したところ、薬剤性急性間質性腎炎を発症した例。
66	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	メチルプレドニゾロンパルス療法とシクロスポリンA併用療法を受けたRA患者1例が、治療開始から3ヵ月後に肺炎で死亡した。
67	エストラジオール	ホルモン補充療法の投与方法と乳癌リスクについて検討した。
68	エストラジオール	検討したCYP1B1遺伝子多型は全体として乳癌のリスクに影響を及ぼさないが長期にわたるホルモン補充療法の施行後のリスクを修飾することが示唆された。
69	アモキシシリン	1991年7月から2001年6月までの11年間で主治医により薬剤性出血性大腸炎が疑われた患者12例を対象とし、白血球遊走試験(leukocyte migration test、以下LMT)により薬剤性出血性大腸炎が疑われた患者の原因薬剤の検出同定を行い、薬剤性出血性大腸炎におけるLMTの有用性、起因薬剤および潜伏期間ならびに発症におけるアレルギー性機序の関与について検討した。
70	マレイン酸メチルエルゴメトリン	エルゴノビンの投与により誘発された出産後の急性心筋梗塞の1症例報告。
71	エストリオール	エストロゲンとプロゲスチン併用と冠動脈疾患のリスクについて。
72	エストリオール	閉経後の女性におけるエストロゲンとプロゲスチン併用の脳卒中に対する影響について。
73	エストリオール	閉経後の女性における全体認識機能に対するエストロゲンとプロゲスチン併用の影響について。
74	テガフール・ウラシル	CDDP・UFT療法と同時併用胸部放射線療法による術前治療を施行したところ、grade4の白血球及び血小板減少が1例認められた。
75	塩化スキサメトニウム	左外鼠径ヘルニアの手術後にハロセンもしくは塩化スキサメトニウムによる考えられる悪性高熱症が発現した。
76	シメチジン	長期酸分泌抑制療法に関連したビタミンB12欠乏について。
77	エストラジオール	タイ人を対象としたエストラジオール・酢酸ノルエチステロン経口剤の臨床試験でプラセボとの比較において閉経期症状緩和の有意な改善が認められなかった。
78	セボフルラン	臨床揮発性吸入麻酔薬(セボフルラン、エンフルラン、イソフルラン、ハロタン、Desflurane(日本未承認))と乾燥したCO2吸収剤(ソーダライム)との反応によるCO産生、発熱の程度について。
79	セボフルラン	セボフルランは乾燥したソーダライムとの発熱反応により反応が増強されるため、最初の15－20分間はどんな分解物も検出できなかった。最終的には、セボフルランの分解物としてCompound A、B、C、Dおよびメタノールが検出された。
80	セボフルラン	乾燥させたソーダライムの入った麻酔器に吸入麻酔薬(セボフルラン、Desflurane、エンフルラン、イソフルラン、ハロタン)を通しカニスタ内の温度を測定した。
81	セボフルラン	CO2吸収剤の脱水がセボフルランの分解物であるCompoundAの生成に与える影響についての研究。

82	プロピレングリコール	ロラゼパム持続注入中に血清クレアチニン濃度の上昇をきたした患者のデータを用いて、血清クレアチニン濃度の上昇度と以下の各変数、すなわち血清プロピレングリコール値、ロラゼパム累積投与量、ロラゼパム投与期間との相関関係について。
83	シスプラチン	VEGF(血管内皮細胞増殖因子)INHIBITORを化学療法と併用した場合、VTEが発現することを示唆する2報の臨床試験報告について。
84	メトトレキサート	HIV感染およびHIV非感染Burkittリンパ腫患者にメソトレキセートを含むCODOX－M／IVACの強化化学療法を施行し、療法に関連する死亡例が各群にそれぞれ1例ずつに認められた。
85	硫酸アバカビル	本研究にて認められたアバカビル過敏症の発現率(8.5%)が現行の添付文書に記載している発現率(4%)より高値を示した。
86	カンデサルタン	過度な血圧低下を呈した患者でのカンデサルタンの薬物動態及びCYP2C9遺伝子変異との関連性について。
87	トラネキサム酸	止血目的でﾄﾗﾈｷｻﾑ酸を含む輸液が点滴静注されたあと内視鏡的胃粘膜切除術が施行されたが、翌日腹痛が現れｼｮｯｸとなった。昇圧剤に反応はなく無尿となった。腎機能の低下を伴っていたためDICを合併したHUS、TTPと診断された。
88	ノルエピネフリン	非閉塞性腸管虚血症の疑いのある患者に投与したところ末梢血管収縮、動脈血酸素飽和濃度低下が出現した。
89	インドシアニングリーン	インドシアニングリーン注(ICG)を適応症外の眼科手術に使用した結果視野狭窄が発現。
90	テオフィリン	テオフィリン中毒と思われる嘔吐により入院した1症例の報告。
91	塩酸マプロチリン	モノアミントランスポーター(MAT)阻害薬の慢性投与の局所麻酔薬痙攣に及ぼす影響について検討した。
92	酢酸クロルマジノン	CMA(酢酸クロルマジノン)使用後の脳血栓発症。経過:2～3年前他院にてCMAを使用、脳血栓を発症し入院。
93	ハロペリドール	1998年1月～2002年12月の5年間に行政解剖が行われ，死因が急性肺動脈血栓塞栓症と特定された28症例のうち，死亡直前まで抗精神病薬を服用していた8症例について患者背景，リスク因子を検討した。
94	アセトアミノフェン	感冒にて投薬を受け、3日後に口周囲と外陰部に紅斑が出現し、水疱形成と糜爛化を認め、入院となった。
95	インドシアニングリーン	インドシアニングリーン注(ICG)を適応症外の硝子体手術に使用した際の視野狭窄について。
96	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、p53遺伝子の変化を伴った乳癌リスク増の原因となっている可能性がある。
97	メルカプトプリン	The randomized trial COALL-92において、メルカプトプリンを維持療法とした群で、脳梗塞、二次性悪性疾患(ホジキン病、骨肉腫)を発現した症例が報告された。
98	塩酸クロルプロマジン	chlorpromazine等のphenothiazine系抗精神病薬使用歴を有する女性患者において，急性肺動脈血栓塞栓症発症のリスクが高いことが示唆された。
99	エポエチンβ(遺伝子組換え)	輸血に反応しない重症貧血のためエリスロポエチンを投与したところ多数の赤茶色の丘疹が体幹、太腿、下肢に出現した。
100	デキサメタゾン	ﾃﾞｷｻﾒﾀｿﾞﾝ、ｼﾀﾗﾋﾞﾝｱﾗﾋﾞﾉｼﾄﾞ、6-ﾁｵｸﾞｱﾆﾝ、ｴﾄﾎﾟｼﾄﾞ、ﾀﾞｳﾉﾙﾋﾞｼﾝによる標準寛解導入療法を行い、その後高用量ｼﾀﾗﾋﾞﾝによる強化療法を実施した急性骨髄性白血病のﾀﾞｳﾝ症候群の小児と同治療を行ったﾀﾞｳﾝ症候群ではない小児において有効性と安全性を比較した。
101	リバビリン	リバビリン投与時の生殖障害及び胎児への影響。
102	塩酸ピオグリタゾン	米国の糖尿病患者におけるTZD系薬剤による黄斑浮腫について。
103	プレドニゾロン	成人発症Still病に対するﾌﾟﾚﾄﾞﾆｿﾞﾛﾝを含むｽﾃﾛｲﾄﾞ大量投与中に多発性脳梗塞、肺塞栓症、くも膜下出血を発症し、ﾑｺｰﾙ症およびｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ感染症を併発して死に至った。
104	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	低ガンマグロブリン血症を伴う毛細血管拡張性失調症(AT)患者の重症感染症にγグロブリン投与を試みたが、アナフィラキシー症状を起し中止した。抗生剤のみの治療では改善せず死亡した。
105	乾燥細胞培養痘そうワクチン	天然痘ワクチン接種直後の好酸球媒介心筋細胞壊死を、生体内組織学的根拠を基に、生検で好酸球リンパ球性心筋炎と認めた1症例を報告する。
106	リン酸ジヒドロコデイン、グアイフェネシン、マレイン酸クロルフェニラミン、無水カフェイン	市販薬を連日服用していた。救急隊到着時、心肺停止状態であったが、ICU入室時の頭部CT画像では異常所見認められず、血中濃度を測定した結果113.4μgと高濃度のカフェインが検出されカフェイン中毒による心肺停止と判断した。
107	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウム投与により薬剤性肺炎を来した例。

108	インドメタシン	超低出生体重児への早期インドメタシン投与が、BPD発生リスクを上昇させる。
109	マレイン酸エナラプリル	マレイン酸エナラプリルの長期投与によりクインケ浮腫を来した例。
110	アロプリノール	アロプリノールにより無顆粒球症を発症した例。
111	プレドニゾロン	肺線維症のためプレドニゾロンを長期間服用した63歳男性が緑膿菌性肺炎，敗血症ショック及び多剤耐性肺炎球菌の左人工膝関節感染に罹患した。
112	塩酸モルヒネ	モルヒネ、三環系抗うつ薬内服後にTTP(血栓性血小板減少性紫斑病)を発症した。
113	ウロキナーゼ	消化器術直後の深部静脈血栓症に対してウロキナーゼを投与したところ腹腔内出血を併発した。
114	エポエチンα(遺伝子組換え)	放射線化学療法とrHuEPO治療を受けている子宮頚癌患者では静脈血栓のリスクが上昇した。
115	ブスルファン	anti-CD20(n=27)を使った高用量放射免疫治療(HD-RIT)または従来の高用量療法(C-HDT)(n=98)について、自家造血幹細胞移植で治療される濾胞性リンパ腫(FL)の連続した患者125名の多変数比較を行った結果、二次的骨髄異形成症候群または急性骨髄白血病(MDS/AML)の発現率は、HD-RIT群では8年で0.076、C-HDT群では7年で0.086と見積もられた。そして、この従来の高用量療法(C-HDT)を受けた患者98名の内23名にブスルファンが投与されていた。
116	ブスルファン	同種異系造血幹細胞移植後の特発性肺炎症候群(IPS)の発現に関して、従来の調整療法(conventional conditioning regimens)を受けた患者と骨髄機能を廃絶しない(nonmyeloablative)調整療法を受けた患者を比較した研究論文において、従来の調整療法(conventional conditioning regimens)を受けた患者の方がIPS発現率は高く、移植後の早い段階で起こり、急速に悪化し、高い死亡率であった。そして、この従来の調整療法(conventional conditioning regimens)を受けた患者917名の内292名にブスルファンが投与されていた。
117	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ヒドロコルチゾンよりも酢酸コルチゾンを投与されている成人下垂体機能低下症患者で、局所および循環血中のコルチゾール濃度が成長ホルモン(GH)投与の影響を受けやすい。
118	塩酸バンコマイシン	現在まで、バンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌(VISA)による感染症例は米国で6例報告されている。
119	リン酸デキサメタゾンナトリウム	悪性リンパ腫患者において在宅酸素療法を行っていたが、呼吸不全が悪化し、死亡した。剖検ではリンパ腫浸潤は認めず、間質性肺炎および肺の線維化を認めた。
120	塩酸キニーネ	スコットランド毒物情報局に報告されたキニーネ中毒。
121	リン酸デキサメタゾンナトリウム	早産児のコルチコステロイド投与における神経感覚への影響。
122	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	インスリン療法開始後、高度の自律神経障害を主徴とした糖尿病性ニューロパチーが発現した。
123	ジクロフェナクナトリウム	出産後に投与されたNSAIDsと関連が否定できない高血圧症が6症例報告された。1症例は死亡。子癇前症患者で高血圧発現の可能性が示唆された。
124	メトクロプラミド	健常人にメトクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。
125	タクロリムス水和物	タクロリムスはマウス皮膚発癌性を促進する。
126	メトクロプラミド	健常人にメトクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。
127	塩酸メトホルミン	ビグアナイド系薬の長期投与を受けた2型糖尿病患者600例の調査において、ビタミンB12欠乏性巨赤芽球性貧血が54例に認められた。
128	ニザチジン	ニザチジンはアセトアミノフェングルコニルトランスフェラーゼを阻害し、血中アセトアミノフェン濃度を増加させることから、パラセタモール(アセトアミノフェン)とニザチジンを同時服用する場合、注意が必要である。
129	ニザチジン	ニザチジンはアセトアミノフェン－グルコニルトランスフェラーゼを阻害し、血中アセトアミノフェン濃度を増加させることから、アセトアミノフェンとの同時服用は避け、解熱鎮痛剤又は投与時刻の変更が必要である。
130	シスプラチン	子宮頚癌および膣癌の患者がCISPLATINを含む放射線化学療法にRECOMBINANT HUMAN ERYTHROPOIETINを併用した場合静脈血栓症リスクの上昇が見られた。
131	イブプロフェン	ADRACは子癇前症や、本態性高血圧の既往をもつ患者に対して出産後の一定期間にNSAIDsを投与する場合は血圧を注意深くモニタリングすることが必要であると勧告している。
132	臭化ジスチグミン	多発性硬化症患者において、臭化ジスチグミンが血液脳関門を通過する可能性が示唆された。

133	ホリナートカルシウム	高用量FU(週1回24時間投与)がFU(ボーラス投与)／LVより有効であるか、高用量FUがLVによりモジュレーションされ得るかを調べる試験を実施した。
134	胎盤性性腺刺激ホルモン	成人女子GHDの不妊治療後のOHSS 3症例。
135	エストラジオール	高血圧を有するホルモン補充療法使用者における卒中リスク上昇が示唆された。
136	エストラジオール	ホルモン補充療法についてCYP2B6で代謝される薬剤と相互作用の可能性が示唆された。
137	バルサルタン	バルサルタンはcMOATを排泄機構にもつプラバスタチンやその他の薬物との併用により血圧低下の延長が生じる可能性があると考えられる。
138	メトクロプラミド	健常人にメトクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。
139	エチゾラム	精神神経用剤エチゾラムが正常眼圧緑内障患者の眼圧に関与するかどうかを検討した。
140	カルバマゼピン	抗けいれん薬によるHSを生じ、発熱、皮疹と一致して肝機能障害の発現を認めた。
141	ヘパリンナトリウム	肺塞栓症の患者にFondapar inuxの皮下投与とヘパリンの静脈内投与を行い、効能および安全性を検討した結果、一人の患者が出血により死亡した。
142	クエン酸クロミフェン	妊娠継続のためクロミフェンを投与された妊婦において、広義の胎児共存奇胎と続発腫瘍が発現するおそれがある。
143	沈降破傷風トキソイド	薬剤投与やワクチン接種により、急性の胸痛出現や心逸脱酵素レベルがゆるやかに上昇、あるいは好酸球増多が見られた際、測定した心電図に変化が現れた時には、過敏症心筋炎の可能性を考慮すべきである。
144	メトクロプラミド	健常人にメトクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。
145	塩酸ピオグリタゾン	心疾患合併患者、あるいはチアゾリジンジオン系薬剤(以下、TZD_s)服用中に浮腫あるいは予想外の体重増加をきたした患者に対するTZD_sの適正使用に関するガイドラインが米国心臓病学会および米国糖尿病学会による合同声明としてCirculation誌上の公表された。
146	プレドニゾロン	亜急性甲状腺炎のステロイド治療中に急性冠閉塞を繰り返した。
147	インフルエンザHAワクチン	出生時、超低出生体重時。1999年6月、神経芽細胞腫のため手術。アレルギー歴、医薬品・造影剤副作用歴については不明である。2001年1月9日、1月16日にインフルエンザワクチンを接種。2001年2月15日より跛行。約1週間進行し、頻回に転倒するようになる。2001年2月20日、手も、うまく物がつかめなくなる。2001年2月21日、入院。副作用治療は不明で、2001年3月24日回復。
148	ケトコナゾール	本剤との併用によりミダゾラムの代謝が阻害され効果が増強する可能性がある。
149	ケトコナゾール	ホルモン耐性な前立腺癌患者におけるドセタキセルとケトコナゾールの併用療法が重大な副作用を惹き起こす可能性がある。
150	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	3年間に製造された米国免許を有する5製造会社で製造された異なる7製剤のIGIV製剤の100ロット以上の抗D抗体を測定した。
151	インドシアニングリーン	黄斑円孔(MH)や黄斑上膜(EMP)に対してICGを0．3から0．4mlもちいた内境界膜剥離後に何らかの視野障害が11例中5例にあらわれた。
152	インドシアニングリーン	黄斑円孔内境膜剥離術において眼の内境界膜の視認性向上のためにICG染色を実施した場合と実施しなかった場合の改善率。
153	カルペリチド	米国での急性呼吸窮迫症候群に対する治験にてプラセボ群に比し実薬群において死亡率が高かった。一方、国内での急性肺障害に対する治験ではプラセボ群に比し実薬群で死亡率は低かった。
154	エポエチンα(遺伝子組換え)	エリスロポエチンはがんの発生率を低下させる可能性がある。
155	エストラジオール	デンマークでホルモン補充療法の骨粗鬆症予防に関する臨床試験が乳癌のリスク上昇が認められたことにより中止となった。
156	メシル酸イマチニブ	日本におけるイマチニブとの関連が疑われる間質性肺炎について検討を行った。
157	エストラジオール	ホルモン補充療法がCYP2B6によるブプロピオンの加水分解を顕著に阻害し、相互作用が示唆された。
158	エストラジオール	高血圧を有するホルモン療法の現使用者において卒中リスク上昇が示唆された。

159	エストラジオール	ホルモン補充の骨粗鬆症予防効果に関する臨床試験において、ホルモン療法を自ら選択したサブグループにおいて乳癌リスク上昇が確認され、試験が10年で中止となった。
160	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	血管疾患を有する患者でのIVIG急速投与は血栓塞栓症のリスクを増加させる。
161	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン中毒により劇症肝不全を合併した。
162	ジアゼパム	悪性症候群症例24例の血液検査所見と薬物使用状況の調査において、2例でジアゼパムの投与が関与していた。
163	ミダゾラム	nefazodone投与によるmidazolamのAUC(444.0%増加)、およびfluvoxamineによるAUCの増加傾向(66.1%増加)、nefazodone投与により認識機能を低下させた。
164	レボドパ・カルビドパ	wearing-offは患者の状態・病気の進行状況でも起こりうるし、長期の薬物療法でも起こりうる症状である。
165	マレイン酸フルボキサミン	セロトニン作動性抗うつ薬と整形外科領域の手術前後の失血と輸血のリスクの関係について。
166	マレイン酸フルボキサミン	セロトニン作動性抗うつ薬と整形外科領域の手術前後の失血と輸血のリスクの関係について。
167	クエン酸タモキシフェン	CYP2D6阻害剤であるSSRIの一種であるパロキセチンの併用によりTAMの代謝に与える影響について検討した。
168	フェニトインナトリウム	フェニトインナトリウム注又はペントバルビタールナトリウム注に接触した三方活栓にひび割れが生じた。
169	アミノフィリン	アミノフィリン注に含有されるエチレンジアミンによる過敏症の1例。
170	ロキソプロフェンナトリウム	アモキシシリンとロキソプロフェンの投与により薬剤性出血性大腸炎を来した例。
171	ロキソプロフェンナトリウム	急性骨髄性白血病患者の発熱時にロキソプロフェンを投与したところ著明な血圧低下を来した例。
172	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェンを投与された女性の子宮内膜においてTAM-DNA付加体が検出されたことから、霊長類の子宮及び他の組織におけるTAM誘発の遺伝毒性損傷を成熟雌カニクイザルで検討した。
173	シスプラチン	シスプラチンを含む併用化学療法を進行肝内胆管がん患者39例に投与したところグレード3/4の血液毒性として白血球減少、好中球減少、血小板減少を非血液毒性としては悪心、倦怠感が認められた。
174	パクリタキセル	パクリタキセル単剤術前化学療法患者を対象に閉経状態について調査した。
175	レノグラスチム	重症慢性好中球減少国際登録のSCN375例のAML発症リスク、長期G-CSF治療患者のコホート研究について検討した。
176	プロピオン酸フルチカゾン	プロピオン酸フルチカゾン吸入患者において、食道カンジダの罹患率が高かった。
177	プロピオン酸フルチカゾン	吸入ステロイド剤を高用量、長期間使用すると白内障発現のリスクが高くなる。
178	プレドニゾロン	急性リンパ性白血病患者におけるAspergillus Flavusの全身感染症。
179	プレドニゾロン	ステロイドパルス療法を施行した患者を病理解剖したところ浸襲性肺真菌症および播種性真菌症の所見があり、右下葉空洞病変に菌糸、僧房弁表面に疣贅、心筋、心外膜、甲状腺に心筋性膿瘍を認めた。
180	バシリキシマブ	術後二重膜濾過血漿交換療法(DFPP)を行った2例の血液型不適合移植を含む10例の腎移植例についてbasiliximabの薬物動態をELISA法を用いて検討した。
181	サリチルアミド、アセトアミノフェン、無水カフェイン、マレイン酸クロルフェニラミン	アセトアミノフェンに起因した劇症肝不全3例。
182	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの投与によりover lap SJS-TENが発症した例。
183	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク点眼液の投与により両眼性の角膜穿孔を来した例。
184	ジクロフェナクナトリウム	長期臥床患者に対しジクロフェナク坐薬を投与したところAHRUを来した例。
185	BCG膀胱内用	膀胱癌に対するBCG膀注免疫療法後にシェーングレン様症候群を発現した1症例について。
186	ブデソニド	副腎皮質ストロイド累積投与量と大腿骨骨折のリスクについて。
187	ブデソニド	一般的にコルチコステロイド間の交叉アレルギーは知られているが、特定のCSに対してアレルギーを持つ患者でも他のCSに対して通常認容性があることから他のCSによる治療を考慮すべきである。

188	メトキサレン	長期間PUVA療法を受けた尋常性乾癬にSCCと角化性結節が多発した1例。
189	開始液、維持液	小児に対する輸液は、初期輸液は生理的食塩水を基本とすること、重症脱水症患児に対する維持輸液は少なくとも中枢神経疾患における低張液の使用に慎重になること。
190	塩酸ミトキサントロン	乳癌後の白血病の危険因子としてアントラサイクリンやアントラセネジオン、アルキル化剤の累積投与量、放射腺療法、癌の家族歴について評価した。
191	フマル酸ホルモテロール	喘息患者に対する臨床試験においてFormoterol投与群で本剤との因果関係が不明な死亡例13件が認められた。
192	細菌学的検査用試薬	測定結果の判定法の変更が必要となった。
193	エストラジオール	ホルモン療法の骨粗鬆症予防効果に関する臨床試験において、ホルモン療法を自ら選択したサブグループにおいて乳癌リスク上昇が確認され、試験が10年で中止となった。
194	プレドニゾロン	慢性関節リウマチ患者でプレドニン投与中、結核性リンパ節炎に引き続き急性骨髄性白血病と膀胱癌が発生し悪性腫瘍の顕在化した。
195	セファクロル	歯にメトロニダゾール・セファクロル・シプロフロキサシンの混合粉末の充填処置を受けた男性がセファクロルによるアナフィラキシーショックを発症した。
196	ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウムを投与した患者に脳内出血、硬膜下血腫、死亡するという副作用が発現した。
197	セファクロル	歯科治療の際に歯根管に充填されたセファクロルによるアナフィラキシーの1例。
198	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	グロブリン療法を行った多巣性運動ニューロパチーの患者が投与から6時間後に輸血関連急性肺障害を発症した。
199	プレドニゾロン	ネフローゼ症候群、橋本病のためプレドニゾロン内服中に粟粒結核症を発症した。
200	ワルファリンカリウム	ワルファリンとクランベリージュースとの相互作用により、ワルファリンの作用が増強されたことが考えられた。
201	シスプラチン	食道癌集学的治療後の長期経過観察中に治療に関連したと考えられる甲状腺機能低下症について。
202	インドメタシン	β－グルカンとインドメタシンの併用投与における致死毒性。
203	テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム	本剤を投与した頭頸部癌患者38例のうち、グレード3，4症例は0-5%で骨髄抑制、口内炎、消化器症状であった。
204	塩酸リトドリン	妊娠中の塩酸リトドリン点滴投与が非投与にくらべ骨密度(BMD)を低下させる可能性が示唆された。
205	アレンドロン酸ナトリウム	アレンドロネートは、男性において腰椎と大腿骨頸部の骨塩密度を増加させる副甲状腺ホルモンの力を弱める。
206	アレンドロン酸ナトリウム	閉経後骨粗鬆症患者における比較試験を実施したところ胃・十二指腸穿孔が発現した。
207	防風通聖散	防風通聖散の関与が否定出来ない肝機能障害の報告が増加している。
208	防風通聖散	防風通聖散を服用した患者に肝機能異常が発現。
209	インドシアニングリーン	黄班円孔手術の内境界膜剥離に際し、内境界膜をインドシアニングリーンで染色した群(染色群)と染色しなかった群(非染色群)の視機能を比較したところ、染色群の50%に鼻側の視野欠損が認められた。また、染色群では有意な視野改善はみられなかった。
210	塩酸ロペラミド	クロザピンを服用中の感染症腸炎患者の下痢に対してロペラミドを投与したところ感染症腸炎とは異なる原因菌であるvanilla saucelによる腸感染症であることが判明し、症状発症後、約16時間後に死亡。
211	ダナゾール	子宮内膜症治療剤ダナゾールにより卵巣癌のリスクが増大した。
212	塩酸ブプレノルフィン	ブプレノルフィンの投与により呼吸抑制が生じ、ブロマゼパムとの相互作用により増強されたと考えられた例。
213	エチゾラム	5種類の向精神薬の併用により中毒性網膜症が発症したと考えられる例。
214	ヘパリンナトリウム	透析導入後にみられた血小板減少を来した1例。
215	ケトプロフェン	パラセタモールとシクロオキシゲナーゼ阻害剤との併用は、中動脈や小血管の血管収縮により重症パラセタモール中毒を増悪させる可能性がある。
216	フェニトイン	フェニトインの関与が否定出来ないイレウス様症状。

217	アミノフィリン	気管支喘息の治療中にアミノフィリン、メチルプレドニゾロンを投与したところ横紋筋融解症を発症した1例。
218	塩酸チクロピジン	チクロピジンにより血栓性血小板減少性紫斑病を発症した例。
219	酢酸クロルマジノン	酢酸クロルマジノンの投与により急性肺塞栓症を来した例。
220	フルコナゾール	フルコナゾールはナテグリニドの血漿中濃度を高め、ナテグリニドの血糖降下作用を延長させる可能性がある。
221	プレドニゾロン	ステロイド投与による房室伝導障害の改善が房室結節回帰性頻拍をもたらしたサルコイドーシスの1例。
222	ランソプラゾール	酸分泌抑制剤使用者では、非使用者と比較して市中感染性呼吸器感染症が多い。
223	塩酸ドパミン	イノバン注シリンジにXテンションチューブを接続しシリンジポンプにて投与したところ等間隔で空気の混入がみられた。
224	エストラジオール	エストロゲンを過去に使用した群での、腎臓癌リスクの増加を示唆する結果が得られた。
225	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンを服用した男児にoverlap SJS－TENが発現。
226	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
227	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
228	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
229	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
230	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
231	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
232	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
233	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
234	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
235	ブシラミン	関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。
236	酒石酸メトプロロール	肝代謝酵素CYP2D6の遺伝子サブタイプは、メトプロロールの薬物動態に影響を与え（特に日本人の中高年患者において）クリアランスを低下させ、メトプロロールの作用が強くでる可能性が考えられた。
237	エキセメスタン	マウスを用いたがん原性試験において、雌雄マウスの中・高用量群に肝細胞腺腫および肝細胞癌の増加が、また雄マウスの最高用量群に良性腎腫瘍の発現率の増加が認められた。
238	エポエチンβ（遺伝子組換え）	生後2週間からrHuEpo、経口鉄剤、葉酸及びビタミンEを投与された超低出生重児3例に血管腫が発現した。
239	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムの投与により薬剤性急性肺障害を発症した例。
240	トラネキサム酸	トラネキサム酸使用が誘因となり膝窩動脈血栓症を発症したと推測された例
241	エポエチンβ（遺伝子組換え）	epoetinαに関するImportant Drug Safety Information及びPublic advisory：慢性腎不全患者に対するepoetinαの製品モノグラフ警告、副作用等の項を改訂。
242	エストリオール	1996年1月から2000年12月に乳房X腺造影剤を行った女性について、エストロゲン単独で使用している女性およびエストロゲンとプロゲストンとの併用している女性に対して、乳癌の危険率を検討した。結果、エストロゲン単独の使用方法で乳癌の発生率が有意に高くなる可能性があった。
243	ワルファリンカリウム	ワルファリンとXimelagaranについて、塞栓症の予防に関し優劣を比較した結果、ワルファリンはXimelagatranよりも多く、心膜、腹膜、関節、脊柱に出血が発生した。
244	ブスルファン	小児癌の70%は回復するが、放射線療法と化学療法は卵巣機能を損傷する可能性がある。
245	ソマトロピン	GH治療はインスリン抵抗性を増加させることにより耐糖能に影響を与えると考えられ、耐糖能異常の出現及び糖尿病の発症については、注意深い長期の経過観察が必要である。
246	メトロニダゾール	18例の細菌性肝腫瘍患者のうち、メトロニダゾール投与が有効であった6例中2例にMRSA腸炎が発症した。